

## ■ OnAir 1500 ユーザーレポート

株式会社エフエム愛媛 様

OnAir 1500 - 12



### 1SUBと4SUBをOnAir 1500で更新



株式会社エフエム愛媛

永見 義和

1982年開局時は国産の16CHアナログ卓、1997年新局舎への移転時はやはり国産の16CHデジタル卓と、時代の流れとともにMIX卓も進化を遂げました。デジタル卓を導入したときには、アナログ卓にはない拡張性、操作性に驚き、普及の始まった電子メールやWWWと相まって、「これからはデジタルの時代やな〜」と感慨に浸っていたのが、昨日のこのように思い出されます。そして、開局から30年目の2012年、15年使用したMIX卓のメンテナンス終了に伴い、またまたMIX卓更新の必要性に迫られたのです。

最近のFM局を取り巻く経営環境は皆さんもご存じのように非常に厳しい状況が続いており、更新に伴う費用もおのずと限られたものとなっています。こうした中、国内・海外製と様々なMIX卓の資料を取り寄せたり、放送機器展で実機に触れ、更に、わざわざ松山の地までデモをお願い致したりもしました。候補に上がるものはいくつかあったものの、費用と操作性の両面を満たすものはなかなかなく、選考に苦慮していました。そんな折、スチューダーから、これまでも日本の放

送局・ポスプロなどに多数導入されているOn Airシリーズの廉価版である「On Air 1500」が発売されるという情報もたらされました。早速、松山でのデモをお願いし、現場で使用する制作部員の意見を吸い上げました。結果は、想定通りといえば想定通りなのですが、「音質、操作性は問題ないが、これまで16CHを使っていたので、12CHのフェーダーでは足りない」との強い声でした。この点については、「表面上の話で、放送中であってもフェーダーの入力は簡単に変更できる(使用しているフェーダーはもちろんガードがかかっています)ので、12CHでも使い回しには問題がない」ことを説明し、社内の了解を得ることができました。もう一つの大きな問題は外部制御(リレー出力)が8個しかないということでしたが、こちらは自社で簡単なリレーのロジックを組み、16個のリレー出力を確保し無事解決することができました。

今回更新したのは、生放送で使用している1SUBと4SUBの2卓で、12CHフェーダー本体に加え、オプションとして二重化電源、8 AES I/Oボードを追加し、2卓とも同じ構成としました。更新後、1年が経過しましたが、放送局としての機能を十分果たすものとなっていることは言うまでもありません。また、当初懸念のあった12CH

フェーダーは、6人のゲストを迎えても難く対応でき、少人数で運営しているFM局では不可欠ともいえる、ワンマンでの収録にも対応しています。デザイン面もこれまでのOn Airシリーズを踏襲した質感で、操作面は通常必要なフェーダー、ボタン、VR以外に無駄なものはなく、機械操作が苦手な女子社員からも好評を得ています。

今回の更新に当たり、様々な要求も技術担当の方のきめ細やかなサポートにより実現する事ができ、これまで同様、放送局としての操作性、利便性を確保することができた上に、低予算でも十分満足のいくものとなりました。大変お世話になりましたスチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様に厚くお礼申し上げます。当社には、あと2卓の更新が残っておりますが、操作性、日本国内でのサポート体制などを考慮すると、同じシリーズでの更新がベストかな！などと考えつつ、この原稿を書いています。

